

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道275号 <small>えべつきたどうろ</small> 江別北道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局			
起終点：自：北海道江別市角山 <small>ほつかいどう えべつ かくやま</small> 至：北海道江別市篠津 <small>ほつかいどう えべつ しのつ</small>	延長：3.5km				
事業概要 一般国道275号は、札幌市を起点とし当別町・月形町・浦臼町等を経由し浜頓別町に至る延長約28.2kmの幹線道路であり、道央圏と道北圏を連絡する重要な路線である。 このうち江別北道路は、2車線区間のボトルネックによる交通混雑や交通事故の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした、江別市角山から篠津に至る延長3.5kmの4車線拡幅事業である。					
H20年度事業化	H1年度都市計画決定	H22年度用地補償着手			
H24年度工事着手					
全体事業費	約138億円	事業進捗率			
		8%			
		供用済延長			
		0.0km			
計画交通量	19,700～28,900台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.4	総費用 (残事業/事業全体) 105/116億円 (事業費：97/108億円) (維持管理費：8.1/8.1億円)	総便益 (残事業/事業全体) 167/167億円 (走行時間短縮便益：163/163億円) (走行経費減少便益：2.6/2.6億円) (交通事故減少便益：1.2/1.2億円)	基準年 平成24年
	(残事業)	1.6			
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.6(交通量±10%) 【残事業】交通量：B/C=1.3～1.8(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3～1.6(事業費±10%) 事業費：B/C=1.5～1.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4～1.5(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.5～1.7(事業期間±20%)					
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①交通混雑の緩和 ・交通混雑が緩和され、定時性の確保や利便性向上が期待される。 ②道路交通の安全性向上 ・車線減少による通行車両の輻輳が解消するなど、道路交通の安全性向上が期待される。 ③重要港湾石狩湾新港への利便性向上 ・安定した輸送ルートが確保され、重要港湾石狩湾新港への利便性向上が期待される。 ④食品雑貨等の流通利便性向上 ・円滑な交通が確保され、食品雑貨の流通利便性向上が期待される。 ⑤救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への、救急搬送の速達性及び安定性向上が期待される。 ⑥CO2排出量の削減 ・自動車からのCO2排出量569 (t-CO2/年) の削減が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 千歳市など6市1町1村の首長で構成される北海道石狩地方開発促進期成会等より整備の要望を受けている。					
知事の意見 現道の4車線化により、2車線区間のボトルネックによる交通混雑や交通事故の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の継続にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。					

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成22年12月 道央圏連絡道路 新千歳空港ランプ～中央ランプ供用
- ・平成23年 3月 道央圏連絡道路 豊栄ランプ～蕨岱ランプ供用
- ・平成23年11月 一般国道275号 蕨岱拡幅全線供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度に工事着手して、用地進捗率74%、事業進捗率8%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んで行く。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡 例	
	供 用 中
	再評価箇所
	部分供用

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。